

の方は当時、熊本の名物男で、夕方になると下通りから上通りまで、カウボーイ姿になって馬に乗って歩いたりしていた方なんですよ。その草野さんが、田代屋の二階にボクシングの道場を作るといふのを聞きまして私も見に行きました。そしたら工事の最中でして、私も手伝いました。それからボクシングを始めました。熊本の三年の時でした。それで学校の帰りには毎日行っただけです。そこで熊本のボクシングが始まったわけなんです。

草野さんもボクシングは本で読んでたけどという方でしたから、今考えると基本を忠実にやってもらったわけで、それがかえって私にはよかったです。思われます。

当時はボクシングをやっていることが学校にバレると謹慎か退学処分を受けるもんですから学校には内緒だったんです。ところが福岡で試合が行われることになりました。その頃は五高と七高の野球、熊本と福岡の柔道の試合が華々しく行われていたんですが、何かの理由で中断になり、その間けきをぬってボクシングの試合が催されたんです。

私は草野さんの名前で主将として出場したんです。福岡に行く時も草野さんの扮装をしていました。この頃から日本としてもボクシングが盛んになったんです。

## 日本一をめざして

私は陸上競技もやりましたし、サッカーもやりました。柔道も相撲もやりました。しかし、どうしても一番になれないんです。強い選手がおりました。いつも二番か三番なんです。私は九州一、日本一になりたいという気持ちが強くなったんです。それでボクシングならば自分の努力次第では日本一になれるだろうと思ひまして、自宅にサンドバッグやパンチングポールを備えて毎日やりました。家の者にはだいたいぶんしかられましたがね。熊商を卒業して専売局に就職することになったんです。今と違って大学に行く者も少なかった時代ですからね。それから不況で自宅待機というわけです。その時先輩から「ボクシングをやるなら東京へ行かなくてはだめだ」といわれて上京しました。

上京して明治大学に入学したんです。ボクシングは「大日拳」というクラブにはいりました。ところが「大日拳」が外国からプロの選手を招へいするんです。その選手の実力がどれ位あるかというのを確かめる必要がありました。日本のプロ選手はいずれは対戦するものですから、プロでない者ということで、いつも私が対戦していたんです。そのようすをみて何回戦とかフアイトマネーはいくらとか決めていました。それでいろんな選手とやっただけですが、とてもお

もしろかったのは、ノックアウト・カブレロという選手が来たんですが、とても強い選手で、私はお茶の水でスパリーングをやったんです。そして私が倒してね。それで「永松はアマじゃない、プロだろう」と言われたりしたんです。

## 四年連続日本一

私はアマ、プロを含めて私より練習した者はいないと自負しています。それと同時に今というなら科学的練習とでもいいたしうかね、強い人の試合を見てはノートをとっている研究しています。

それから私のボクシングでよかったと思うことは、全日本の関東決勝で負け、次の明治神宮大会の決勝でも負けてしまったんです。

いわゆる壁にあたったわけなんです。それでどうしても壁を破らねばと思ひて研究しました。それには一つ、二つのものを身につけてもだめなんです。ボクシングで大事なものは、いかに自分の欠点を隠し、いかに特徴を出していくか、あるいは逆に、いかに相手の特徴を出さないで欠点をついていくかということなんです。そういうことで勝ったことが後で日本一を四年間維持する基礎になったと思ひます。順調にチャンピオンになったり、あるいは一、二回戦で負けていたならくじけていたかもし

かわからないんです。勝ったか負けたかも全然わかりませんでした。

私が上京して、初めての試合の時も、二回で倒したんですが、勝ったか負けたかわかりませんでした。おそらく今の若い人にも自分でわからないで試合をしている人が多いと思いますよ。

それで「ベルリンで負けたから、もう永松はだめだ」といわれて、自分としては一生懸命やったのに、結論的にそうなっていくるとスポーツに疑問を持ちました。ずっと勝っていたので負けた時の悲哀を感じましたね。それでスポーツをやるのをやめようと思ひました。それから明治大学を卒業するまで指導をやっていたんです。

卒業すると理研工業という会社に就職しまして労務管理をやっていたんです。上司と衝突してね。その頃、先輩が中国で農場をやっていたんで手伝いに行っただけです。

八百ヘクターの農場で四、五百人近くが働いていました。私は労務管理をやっていたんで、その人たちの食糧から寝る所の世話までやっていました。それから終戦で熊本に帰ったら焼け野原でした。それでまた上京したんです。そして昭和二十四年に新制大学になって体育が正課になりましたので明治大学に入ったんです。

## 頭脳的であれ

熊本にボクシングの素質のある選手が

いると弟が私のところへ相談してくるんです。そして私が引き受けてボクシングをやらせていたんですがね。藤本一馬や中山修一といった優秀な選手もいました。そういうことから熊本のボクシングのレベルもだいたい向上したと思ひます。やはり地方が充実すると中央も活発になりますからね。

東京オリンピックの時は、ソ連のボクシングがよくなってきたというところで視察に行っただけです。二ヶ月間いたんですが、十キロもやせてしまいました。東京オリンピックには十人出場しましたが、金メダルは桜井孝雄一人でした。もつとよい成績を期待していたんですがね。技術面では負けないんですが精神力が弱いんです。特にボクシングは精神面が試合に大きな影響を及ぼすスポーツですからね。

私は若い者をみて感じますことは、粘りがないといえますか、根性が足りませんね。

遊ぶ機会が多いというか種類も多くなっていますので、全体的に苦勞しているんな事をやるより安直なおもしろい方向へ走ってしまふ。一つはアルバイトができるから金はいり易い。すると金の価値がわからなくなってしまう。私は学生にいつも言っているんですが、「アルバイトはその人の歴史として残るから、人に恥ずかしくない仕事をしろ」と。それから家庭と子供が直結していかなくてはダメですね。道徳面といえますか

人間的な面がとてもぬけているように思われます。

また、最近ではあらゆるスポーツが盛んに行われていますけれど、あまり小さい時から種目を限定しすぎるような気がするんです。ちょっと野球がうまいと、親はすぐに長嶋カ王になると思ひてしまふ。そういうことではなくスポーツのよさを身につけてやる必要があるわけなんです。伸びる時はちよつとの間にぐんと伸びてしまふからね。もつと基礎的な面が必要なんです。私のボクシングにしたって、陸上、サッカー、相撲などのスポーツをやって基礎体力ができていたからなんです。体力的にも人間的にも欠点のある人が非常に多いような気がします。

私はボクシングを指導する時でも強い選手よりもうまい選手になれ、頭脳的であれということをやっているんですが、日常生活においてもそうではないでしようか。特徴がある人間よりも欠点のない人間でなくてはならない。トナメントで優勝するには、特徴があっても欠点が多くてはだめなんです。すぐに欠点をやられてしまふからね。欠点を少なくして全体的なバランスをとりながら特徴を伸ばすということですね。

## 日本的な人にあこがれ

学校の先輩にブラジル移住の先覚者上塚司さん、尺八の故吉田清風さんという方がおられて、子供なりにあこがれ

れませんよ。

私は大変気が小さいものですから、万全を期して試合に臨まなくてはだめなんです。

だから今度の予選にはどういふ選手がでてるか、決勝にはどの選手が残るか、この選手にはどういふ欠点があり、特徴があるということを研究して自分の部屋に書きだしてね。それを毎日見ながらリングに上ったんです。しかし計算通りにはいかないことが多いんです。その時、自分に言い聞かせるんです。「俺はこいつよりも余計に練習をしたんだ」と。それが支えになって有利に試合を進められたんです。その支えが今という根性だろうと思ひますがね。

私は記録は大切にしないでいいと思ひます。そのためには自信がある時しか試合をしない。試合をするためには自信が必要だから練習をするということですね。

## スポーツに疑問も

昭和十一年のベルリンオリンピックに参加して第二回戦で負けたわけなんです。負け理由は一言でいって、大きな試合に臨むには、こちらの方が若くて力量不足だったということでしょう。試合をしている時も浮ついた気持ちでやっていると。自分でこれはいけないんだと言ひ聞かせてもどうにもならない。後で考えてもどんな試合だった

的な人になりたいと思ひていました。それで熊本の若者の役に立てばという気持ちで、オリンピックのプレーヤーコートに五福幼稚園と五福小学校、熊商に贈ったんです。子供たちがそれをみた時に、「俺の先輩にこういふ人がおるんだ。俺も何か一つがんばろう」という気持ちを持ってくれると有難いんですがね。

私が授業をやっている時に、熊本弁というのはいくらもわかりませんがね。「おいお前、熊本はどこだ」ということになるんです。全国的にも熊本は郷土愛の強い所ですよ。

この前、帰った時に洗馬川が大変きれいになっていました。とてもうれしかったんです。熊本も中核都市として大きく発展しているようだし、距離的にも東京とだいぶ近くなってきましたね。それであまりにも急激に発展しているというか、たとえば催し物でも東京と同じものがやられているんです。私は昔ながらの郷土のイメージを持っているわけ、なんだか郷土感というか、ふるさとが薄れていくような気がするんです。私みたいな年齢になって熊本を見る目と若者が見る目は違うわけなんです。私は子供の頃の印象がとて強く、ついそれを郷土づくりという時におくわけなんです。それじゃいけないんです。また若者にそれを求めるのも無理なんです。しかし昔のよさというものは残しておく必要があると思ひます。

また若者にしても、昔のよさを引き継ぎながら若者にとっての郷土づくりに励んでほしいと思ひます。